

県立高等学校再編成基本計画

－ 魅力と活力ある県立高校づくりのために－

〔平成21年度～平成30年度〕

抜 粋

平成21年2月12日

島根県教育委員会

目 次

- 1 計画策定に当たって
- 2 再編成の背景
- 3 今後の高校教育のあり方
 - (1) 基本的な考え方
 - (2) 学科のあり方と配置
 - 1) 普通科及び普通系の専門学科
 - 2) 職業系の専門学科
 - 3) 総合学科
 - (3) 中高一貫教育のあり方
 - (4) 高校と中学校との連携による教育の推進
 - (5) 特別支援教育への対応
 - (6) 生涯学習社会における高校のあり方と地域社会との連携による教育の推進
- 4 今後の再編成のあり方
 - (1) 基本的な考え方
 - (2) 1学級当たりの定員
 - (3) 望ましい規模
 - (4) 高等学校の統廃合基準
 - (5) 統合再編成を実施する場合の留意事項
- 5 計画期間内における主な課題
 - (1) 学級増減の考え方
 - (2) 専門学科及び総合学科を設置する小規模高校について
 - (3) 普通科を設置する1学年2学級以内の高校について
 - (4) 分校について
- 6 実施計画について

県立高等学校再編成基本計画

1 計画策定に当たって

本県では、これまで「県立学校再編成基本計画」に基づき、平成11年度から20年度までを計画期間として、魅力と活力ある県立高校づくりに取り組んできた。

この10年間で、県内の中学校卒業生数は約2,600人減少し、平成21年度からの10年においても、減少のペースは緩やかになるものの下げ止まることなく、1,000人余りの減少が見込まれる。

そこで、平成21年度からの10年を展望した、中長期の県立高校のあり方や進むべき方向を検討するため、平成18年3月に外部有識者から成る「魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会」（井上定彦会長）を設置し、平成20年3月には同委員会から「平成21年度以降の魅力と活力ある県立高校のあり方について」と題する答申を受けた。

この答申は、今後も生徒数が減少する中で、魅力と活力ある県立高校づくりのためには、高校の配置や規模とともに、地域社会との連携や高校の社会的な役割なども含めた高校教育のあり方が重要であるとの認識の下で、今後10年を展望した、県立高校の進むべき方向を示したものである。

しかし、教育を取りまく環境がめまぐるしく変化する中であっては、これまでのように、高校毎に5年先、10年先の学校像を示すことは困難である。そのため、今回の再編成計画策定に当たっては、答申の趣旨を十分に踏まえ、今後10年間の再編成に関する基本的な考え方を盛り込みつつも、個別具体の計画については、今後、実施が具体化した高校について、逐次策定し、公表、実施することとした。

県民の皆様には、今後の再編成が、各県立高校自らの改革はもとより、家庭や地域社会の理解・支援・協力などに支えられて成り立つことを十分御理解いただき、学校と家庭、地域社会が一体となった魅力と活力ある県立高校づくりの推進に積極的に御参加いただくようお願いしたい。

2 再編成の背景－生徒数の減少と学校規模の縮小－

本県の中学校卒業生数は、昭和38年にピークを迎え、26,000人余りに達したが、その後は減少の一途をたどり、平成11年に9,700人余りまで減少し、平成20年には7,100人余りとなった。この間、県立高校全体で46学級1,840名の入学定員を削減し、平成11年度に1学年5.2学級だった1校当たりの平均学級数は、平成20年度に4.2学級まで縮小した。この減少傾向は、平成21年度以降も続き、平成30年度には6,100人余りになると見込まれる。今後10年間で1,000人以上減少することになり、1学級40人として単純計算すると、さらに30学級程度の縮小を余儀なくされる状況にある。

このような生徒数の減少に対し、学級数を減らすだけでは、小規模校が増加するばかりであり、生徒の学習ニーズに応じた幅広い教科・科目の開設が困難になること、生徒が集団の中で切磋琢磨しながら学習活動や学校行事、部活動を十分に行うことができにくくなることなど問題点が多い。

こうした状況を踏まえ、生徒にとって望ましい学習環境を提供するためには、学校の統廃合も視野に入れ、高校教育はどうあるべきか、魅力と活力ある学校づくりのためにはどうしたらよいかなど、中・長期の視点から検討する必要がある。

3 今後の高校教育のあり方

(1) 基本的な考え方

これからの高校教育は、社会の急速な変化に的確かつ柔軟に対応していくとともに、生徒の興味・関心、能力・適性、進路の多様化などに適切に対応していく必要があり、各学校においては、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着や豊かな人間性の育成を図り、生徒に「生きる力」を育むことが一層重要となってくる。

そこで、今後、高校再編成を推進するに当たっては、「魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会」の答申を踏まえながら、**中・長期的な観点から、中学校卒業予定者数の推移や各高校の志願者の動向、さらには地域のニーズや実態などを考慮しつつ、**以下のような考え方にに基づき実施していくこととするが、そのためには、**行政や地域、企業や関係団体が連携し、総力をあげて取り組んでいくことが必要である。**

① 豊かな人間性を育む教育の推進

高校教育においては、豊かな人間性や社会人として必要な勤労観・職業観の育成など、総合的な人間教育の場としての役割が求められている。そのためには「生きる力」を支える知（確かな学力）・徳（豊かな心）・体（健やかな体）の調和がとれた人間形成を目指すとともに、小・中学校で育んだ生徒一人ひとりの個性や能力をさらに伸ばし、豊かな教養やコミュニケーション能力、忍耐力など自立した社会生活を送るために必要な力を培っていくことが重要である。

このような人間形成を図っていくために、本県の恵まれた自然環境や優れた伝統・文化などの特性を生かし、地域に根ざした特色ある教育を推進していく。

② 将来の地域や産業を担う人材の育成

将来の地域や産業界を担う人材を育成するためには、**地域の人材や文化・自然・産業などの地域資源を活用するなど、ふるさと教育を推進するとともに、これまで以上に県内定住も視野に入れた地域との連携を深めていく必要がある。**そのためには、**地域で活躍する企業関係者や卒業生をはじめとして、地域社会の協力や支援が必要不可欠である。**

③ キャリア教育の充実

今日、若者の勤労観・職業観の希薄化や、中途退学・早期離職の増加、ニートやフリーターと呼ばれる若者の存在が社会問題となっている。

このため、生徒に働くことの意義や尊さを教えるとともに、将来の目標や職業意識をもたせるため、企業見学やインターンシップなど、キャリア教育の一層の充実を図っていく。

④ 社会の変化や生徒の学習ニーズに対応した教育の推進

国際化や情報化の進展、少子・高齢化の進行、産業構造の変化などに加え、生徒の進路が多様化している状況から、社会の変化や生徒の学習ニーズに対応した教育が求められている。

かつては「普通高校からは進学、専門高校からは就職」という固定的な捉え方もあったが、今では高校卒業後の進路が多様化しており、今後とも教科・科目の選択幅の拡大など教育課程の一層の弾力化や学科改編を行うとともに、大学等の研究・教育機関との連携などを通して教育内容の一層の充実を図っていく。また、総合学科や中高一貫教育の今後のあり方についても引き続き検討していく。

⑤ 教職員の資質向上を図る研修の充実

省略

(2) 学科のあり方と配置

1) 普通科及び普通系の専門学科

①普通科

普通科に学ぶ生徒の進路は、大学、短大、専修学校などへの進学や就職など多岐にわたっている。こうした中で、普通科には高等教育につながる基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、個に応じた多様な教育を展開していくことが求められており、本県では、これまで、生徒の学習ニーズに応じたきめ細かな教育が行われてきた。今後も基礎的・基本的な内容の確実な定着を図りながら、能力・適性に応じた教育を行うとともに、特色ある学校づくりを推進するため、学校の実態や地域の特性に応じて、教育課程の一層の弾力化を図っていく。

また、普通科においても、生徒に将来の目標や職業意識をもたせるため、県内定住も視野に入れたキャリア教育の一層の充実を図っていく。

②理数科

科学技術が高度化・専門化する中で、体験的な学習を通して科学的なものの見方や考え方などを育成する理数教育の振興が一層求められている。こうした中で、今後も理数科の特性を生かした教育を推進していくとともに、探求的な学習を一層重視するなど、生徒や地域のニーズに応じて、教育内容や指導方法を改善していく。

なお、県内6校の理数科については、前述の改善の成果や入学志願者の動向によっては、学科の存続の可否について検討する。

○現在の配置状況〔6校〕

高校名

松江北高校、松江南高校、出雲高校、大田高校、浜田高校、益田高校

③英語科

国際化の進展に伴って外国語教育・国際理解教育の果たす役割は一段と重要になっている。こうした中で、英語科においては、授業以外にも、海外研修、イングリッシュキャンプなどの体験学習や留学生の受け入れなどにより、実践的コミュニケーション能力を育てるとともに、異文化を理解し尊重する態度の育成を図ってきた。近年、小学校においても英語活動が行われるようになり、**英語教育に対するニーズは一層高まると予想される**ことから、今後も英語科の特性を生かした教育を推進していくとともに、生徒の多様なニーズに応じて、教育内容や指導方法を改善していく。

なお、前述の改善の成果や入学志願者の動向によっては、学科の存続の可否について検討する。

○現在の配置状況〔1校〕

高校名 江津高校

④体育科

省略

2) 職業系の専門学科

社会が著しく変化し、産業構造や就業構造が大きく変わりつつある中で、専門高校は生徒の自己実現を図り、将来のスペシャリストを育成する役割を担ってきた。

今後も各専門分野の基礎的・基本的な教育に重点を置くとともに、インターンシップや、各分野の専門性を生かした資格取得、各種コンテストへの参加など学習目標を具体的に提示して、生徒が自ら進んで学び続けようとする意欲や態度を育成していく。

また、専門高校では、入学直後からのキャリア教育や県内産業を意識した進路指導の一層の充実を図るとともに、卒業後は、就職だけではなく、大学、短大、専修学校などへ進学する者も増えていることから、生徒の進路希望に応じて教育課程を一層工夫する。

なお、本県には、若年者の県外流出や若年労働者の減少という課題があり、本県の産業振興に即した人材育成が求められている。若年者の県内定住を促進していくためには、魅力ある就業先の確保など、行政や企業・関係団体をあげた総合的な取り組みが必要である。本県の産業を担う人材の育成については、今後、どのような分野で、どのような人材を、どの程度必要とするのかなど、関係業界等とも連携しながら、その要請にも応えられるような教育を推進していく。

一方、多くの専門学科が1学科1学級であるという実態を踏まえ、今後、専門高校における定員を検討する際には、社会の変化、生徒や地域のニーズ、地域産業の実態などを総合的に判断しながら専門高校のあり方を検討していく必要がある。

① 農業に関する学科

省略

② 工業に関する学科

現在の工業においては、科学技術の進展に対応するとともに環境保全や資源エネルギーの有効活用への取り組みが必要とされている。また、今後とも、地域産業を支える人材が求められている。

工業に関する学科においては、今後とも、ものづくりに関する基礎的・基本的な知識と技術の確実な定着を図るとともに、実践的実習・実験を重視し、環境変化や技術革新に対応できる将来のスペシャリストを育成していく。

また、地域産業界と連携した教育や資格取得などに主体的に取り組む教育を推進し、工業技術に携わり、創造することに喜びを持ち、働くことを生き甲斐とする、創造性豊かで地域に貢献できる技術者を育成していく。

○現在の配置状況〔4校〕

高校名設置学科等

松江工業高校 機械科、電子機械科、電気科、電子科、情報技術科、建築都市工学科

出雲工業高校 機械科、電子機械科、電気科、建築科

江津工業高校 機械科、総合電気科、建築科

益田翔陽高校 電子機械科、電気科

③ 商業に関する学科

現在の商業においては、経済の国際化・情報化の急速な進展に伴い、コミュニケーション能力や情報活用能力などを含めたビジネスに関する幅広い知識・技術を持った人材が必要とされている。

このような中で、商業に関する学科においては、今後も流通ビジネス、国際経済、簿記会計、経営情